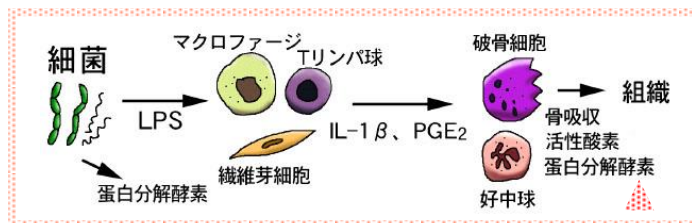


歯肉溝バイオマーカー PERIO-CATCHER

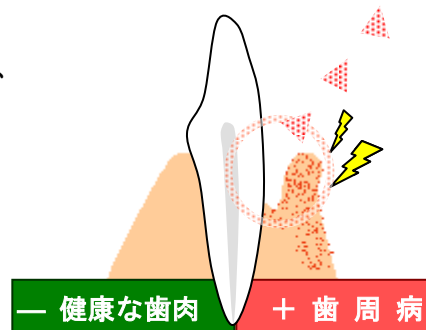
歯周病の診断・進行度の確認のために、歯肉溝滲出液(歯周ポケットの中に出てくる液)の成分を調べました。数値が高いと歯肉に炎症が起こっています。

炎症が長い間起こっていると
心臓病や動脈硬化の原因に
なったり糖尿病が悪化したり
するという結果が出ています。



歯周病は成人のほとんどの方が罹患していますが、初期に自覚症状が出にくいことから、歯周炎にかかっていることに気づきにくい特徴があります。見えない体の変化を、数値で表すのが生化学検査です。

健康管理の一助としてご利用ください。



歯周病検査の結果の見方

Lf ラクトフェリン (白血球成分)

炎症(白血球活動)の指標 歯周病の悪化の予測 炎症の度合
判定 (-) 0.0-0.39 $\mu\text{g/mL}$, (+) 0.8 $\mu\text{g/mL}$ 以上

AT α 1アンチトリプシン(血漿・血清蛋白)

血漿蛋白滲出の指標 歯周病の進行度
判定 (-) 0.0-0.39 $\mu\text{g/mL}$, (+) 0.8 $\mu\text{g/mL}$ 以上

AST アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(細胞内酵素)

組織破壊の指標 歯周組織の破壊度
判定 (-) 0.0-9.99 IU/L, (\pm) 10 IU/L 以上

※ **ASTは、参考値のため(+)の判定がありません**

検査についての専門的なお問合せは開発元のこちらへ

株式会社保健科学ホームページ <http://www.hk-wj.co.jp/>



歯周病になる お口の敵

タバコ、甘い飲み物

糖尿病、肥満、骨粗しょう症、唾液の減少、ストレス、疲労、歯軋り・くいしばり



歯周病にならない お口の味方

セルフケア

丁寧な歯磨き 歯と歯肉の境目を中心に！

歯間清掃(デンタルフロス、歯間ブラシ)

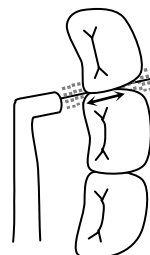
週に1回以上は、歯と歯の間もきれいにしましょう

タバコを控える

甘い物を控える

プロフェッショナルケア

予防のために定期的健診・クリーニング(PMTC)



噛むことの効果

よい歯で よく噛み よい体

唾液が良くでる

- ◇消化吸収を助ける
- ◇むし歯・歯周病になりにくなる
- ◇肥満予防
血糖値が早く上がり満足感が得られる
- ◇ガン予防
唾液中の酵素が発ガン物質を抑える



脳への刺激

- 噛むことで脳内の血液循環がよくなり、脳神経が刺激され活性化されます。
- ◇脳の発達を促進
- ◇ストレス解消
- ◇ボケ防止
- ◇認知症になりにくい



◎一口30回 ◎噛み応えのある食材 ◎大きめの食材にする ◎飲み物で流し込まない

8020

『80歳になっても歯を20本以上自分の歯を保とう』

歯は20本以上だと、ほとんどの食べ物を食べることが可能であることがわかっています。(親知らずを除いた歯の数は全部で28本)

ほんの少しの心がけが、お口の健康ひいては健やかな心身へと繋がります。生活習慣を見直して、続けられそうなことから始めませんか？

